

ちょうふ環境市民会議  
第15回定期総会  
議案書

2023. 5. 21 (日) 14時～

あくろす研修室3

議案項目

第1号議案	2022年度事業報告.....	P. 1
第2号議案	2022年度収支報告.....	P. 10
第3号議案	2022年度監査報告.....	P. 11
第4号議案	2023年度事業計画案.....	P. 11
第5号議案	2023年度予算案.....	P. 14

## ■第1号議案 2022年度事業報告

### ○2022年度活動方針

○規約にかかげた活動目的・方針にもとづき、活動を楽しく行います。

- ・東日本大震災後、11年が過ぎ都市に住む市民の暮らし方が、電力・プラスチック・水資源等の消費が問われ続けています。暮らしを根本から見直し行動する「私から始めるエコライフ」の活動に引き続き取り組みます。また、新型コロナウイルス感染防止対策など、新たな市民生活への制限に関わる事態も生じてきています。私たちの生活様式の変化を余儀なくされる中、環境にやさしい生活・持続可能な社会をめざした暮らしを考えていきます。
- ・調布市の自然環境をはじめとする「環境」について、環境を考える市民・事業者・団体に向けて活動で得られた情報や知恵を共有できるよう連携して活動していきます。
- ・市民・活動団体・企業等との連携を図るプラットフォームとしての役割を担う上で必要となる、市民向け環境情報の受発信の基地等についても検討していきます。
- ・予算要望活動により、これまでの環境学習交流推進事業委託の他に、前年度に引き続き ①環境基本計画を実効性のある計画とするための環境学習のための講座開催②国分寺崖線ウォークイベント事業の業務受託を行います。

また、環境基本計画の中間見直しを行うなかで、ちょうふ環境市民会議が市民との協働の実践を実質的に担う市民組織として位置づけられ、その役割と責任が大きくなっています。若い理事や事務局補助の参加により、多様で柔軟な視点を取り入れながら、2022年度もプロジェクト(PJ)ごとに事業実施に取り組みます。

これら多岐にわたる委託事業や自主事業を継続していくプロジェクトチーム(PJ)には、多くの会員のご協力が必要です。引き続きの協力をお願いいたします。

- ・今後も継続して環境保全活動を担う人材確保のため組織運営の再構築についても検討します。

※ 「第14回定期総会」は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のためメール配信により書面議決とさせていただきました。

### ○2022年度活動方針にもとづき活動しました

- ・2022年度は、世界規模の「新型コロナウイルス感染症」拡大による2020年4月7日に発令された緊急事態宣言(5/25解除)、その後の感染拡大(第2波・第3波)により2回目の緊急事態宣言(1/8～3/21)の発令、調布市での「まん延防止等重点措置」で23区とともに(4/12～5/11)指定等、行動の自由が奪われるなど、その後も第6波第7波と続き3年にもわたった行動制限が続きました。市のイベントの中止やイベントもオンラインで行うことも多くなり活動に大きく支障が出てきました。ようやく5月8日からは感染症法上での5類移行で行動の制限が解除されてきています。
- ・一方、ちょうふ環境市民会議が市民団体・事業者・行政と連携をとりながら推進体制を担う市民組織として位置づけられている『調布市環境基本計画』(平成28年度施行2016—2026)で2022年度も「環境基本計画協働推進委託事業」等5事業を市から事業受託し「エコライフ推進プログラ

ム事業」の壁面緑化事業については環境フェアの延期等によりチラシ・ポスターの企画ということでデザインを市民会議経由で依頼するなど内容を一部変更したものの、仕様書の通り事業を完了することができました。

- ・佐須地域の公有地化した土地活用について、深大寺・佐須地域環境資源管理・活用委託事業の受託により 2020 年 12 月までの 2 年半にわたる暫定使用期間も終了、新たに「農業公園」として活用されはじめていますが、運営については、市民会議とは別の団体が受託しているので、意見をのべる機会や場がありませんでした。

- ・他に、緑と公園課からは「崖線ウォーク事業」の 5 年目の事業を受託し、昨年の経験を踏まえて「歴史」「生き物」(2 コース)「樹木」の 3 種類のガイドウォーク 4 コースで実施しました。今年度後半からは他のイベントも従来通りの復活もされてきたため、他事業と重複するなどして前年より参加者は減少したものの 47 人の参加がありました。

- ・2009(平成21)年3月の設立から13年が経ちましたが活動拠点の確保については実現していません。また、事務局長をはじめとした事務局を担う人材の確保は課題として継続しています。

## 1. 組織運営報告

### 理事会 (理事 10 名 及び監事 1 名)

- ・定例理事会を隔月に行い年 6 回開催しました。(その他理事会に変わるメールでの報告配信を行った)

- ・受託事業業務管理については業務ごとに担当理事を決めました。

- ・行政との懇談会(環境政策課及び緑と公園課)は3回行いました。

その他深大寺・佐須の農業公園予定地に関する意見交換は緑と公園課との雑木林連絡会にて情報の交換を行いました。

### 運営会議 (ちょうふ環境市民会議会員)

今年度もコロナ禍でもあり運営会議の開催はおこないませんでした。

### 総会

第 14 回定期総会はコロナ禍の中 5 月 15 日 15 時より、あくろす研修室 2 にて代表理事および理事、監事を含め会員 20 人の出席、委任状 18 人とネットによる書面議決も含め、総会成立数を確認して開催され、すべての議案が可決され、ました。

コロナ禍の中、活動が中止等余儀なくされたこともあり、ちょうふ環境市民会議への関心が薄れることへの対策が必要です。また、事務局長・事務局員不在の中、事務局の手伝いを頼んでいる状態が続いていることは変わらず、人材の確保が課題のままです。

### 事務局 (事務局長不在 / 局員手伝い 1 / その他 会計 1)

2022(令和 4)年度事業計画の年間進行管理を各理事が分担して行いました。理事会議題案の作成や資料準備、議事録を岡部理事、個人会員・団体会員に対する連絡や行政との連絡調整などについては、引き続き鍛冶さんと有本さんに手伝ってもらいました。また会費管理等会計業務(受託会計含む)事務一切を中原理事が担当しました。

会員動向 【2022年度末 会員数】（ ）内は昨年度実績

個人会員：43（45） 団体会員：14（13） 法人会員：4（4） / サポート会員：4（7）

## 2. 事業報告

### <自主事業>

#### （1）交流事業

##### ①雑木林連絡会（担当：安部・大村）

年間4回の連絡会（安全講習会を含む）を開催しました。コロナ禍の中リモート参加も含め第1回5月18日、第2回8月28日、12月11日若葉第三緑地での安全講習会、第3回2月15日に開催しました。連絡会では各保全緑地等のナラ枯れ対策や課題等について情報交換しました。安全講習会は入間地域福祉センター（座学）と若葉3丁目緑地（実習）で実施。健全な雑木林の在り方と、下草（ササ）刈り、低木の伐採の作業実技について学びました。

また、市緑と公園課担当者がウォークスルー形式で各緑地を歩き課題を共有することも順次行われました。さらに、緑と公園課職員からの緑地保全の学習会の提案が第3回連絡会にて急遽なされ、3月11日（土）10時より初めて合同勉強会「樹林地の継承と維持管理のあり方」について、講師：菊地俊夫氏（地理環境・観光科学）東京都立大学特任教授・名誉教授 理学博士、調布市まちづくり審査会委員他と、意見交換サポートを石川和宏氏（株式会社セルコ 環境事業部 環境調査センター長、みんなの森ワークショップ講師）を交えて行いました。

雑木林保全についてだされていた課題は、雑木林管理計画の進捗についての意見交換（ナラ枯れ対策を含む）、市から提供物品購入について等でした。

また環境市民会議の企画運営による「調布がいせんウォーク 2022」にも実行委員会の段階から連絡会の保全活動団体が参加し、当日もスタッフの中心となって協力しました。

紙媒体の「調布の自然だより」が2020年1月に終刊となったため、2月から環境市民会議ホームページに「〇月の雑木林」を連載しています。連絡会メンバーの4団体が毎月、記事と写真を投稿。広報・情報交換・記録の場として定着してきました。掲載団体が増えることを期待しています。

##### ②イベント参加・活動PR

###### ・アースデイ in 調布2022（担当：紺野）

コロナ禍により開催されませんでした。

###### ・調布市主催「環境フェア」（担当：里）+ 応援スタッフ理事

①例年6月の第1土曜日に開催していたがコロナ禍により例外として10月22日（土）に延期開催しました。

②“丸太切り” イベントは幅広い年齢層の参加があり、例年通りに好評でした。

###### ・多摩川自然情報館祭り

コロナ禍により開催中止

###### ・ちょうふしぜんフェスタ2（磯邊・中原・里・岡部）

6年ぶりに5月5日調布駅前広場にて開催され、協賛団体として参加しました。4000人の市民が来場しタッチプールなどは人数制限をして感染症対策しました。市民会議のブースでは、森の地図を配付し午前中には準備したものがなくなりました。また、新たな団体との交流もできました。

・多摩川クリーン作戦（磯邊、里）

11月13日 市主催行事に参加しました。

## （2）活動推進

・昨年に引き続きナラ枯れの学習会や、実際の雑木林保全についての現地見学会を開催を予定していましたが、企画ができませんでした。

## （3）広報事業（担当：事務局）

・ホームページ（ブログ） HP基本管理1名（委託）。

4つの雑木林保全団体が毎月作業報告やフィールドのようすを写真と共に掲載しています。

その他、講座の募集時にはチラシを掲載し、申込フォームを設定しました。

アースデイ用に「ちょうふ環境市民会議」を紹介する動画を作成しましたが、コロナ禍の影響もあり環境市民会議そのもののPRはあまりできませんでした。

また、リーフレット作成については、見積を1件とったものの具体的に内容等についてどのようにするかPJで検討していく必要があります。

## （4）調査研究

今年度はコロナ禍の中、実施できませんでした。

## <受託事業>

### （1）雑木林ボランティア講座運営事業（担当：里・尾辻・中原+補助スタッフ2名）

6回の講座開催を企画しました。年講座を担当していた小林講師が体調悪化のため受け持ち講座（第1回目および第6回目）講師を変更実施しました。

#### 当初計画と実績成果

① 第1回目講座講師は小池弘志氏に変更して実施、第6回最終回のまとめ講座は午前のバスツアーで凸凹の森、若葉の森を見学し講師に富澤貴氏に依頼し、午後にはまとめのワークショップをコーディネーター安部氏に「調布の雑木林の現状と課題」をテーマに実施しました。

#### ②募集と受け付け

○年度初め4月の市報に掲載+チラシを作成し配布、市民会議や加盟団体のHP等によるPRや受講生OBにも拡散を依頼しました。

○申込受付（募集20名）は昨年同様に利便性・効率化等を図るべく“市民会議のHP内にQRコードを設け”原則、電子受付に変更しました。

③コロナ禍による生活スタイルの変化によるものか不明だが、参加者の年齢層が例年に比べ低く環境保全の意識は高く感じられました。

講座終了後、カニ山他既存団体へ若干名の参加者がありました。  
引き続き講座を通じて受講生の参加意欲増すように努めていきます。

## (2) 環境保全団体・市民の交流事業（担当：児島・安部）

### 「第14回環境活動交流会 ～みんなで語ろう調布の環境～」

2023年1月28日（土）14時～16時（オンライン開催） 調布市教育会館

環境保全への取り組みの理解、推進を図るため市内における環境保全団体や市民の交流を図るためのイベントの市からの受託事業として実施しました。今回もコロナ禍での交流ということで、オンライン開催とし、ZOOMによる参加と会場参加でした。今回は第一部に『コンポストから始まる地域循環と調布のまちづくり』と題して落ち葉や生ごみなどから堆肥化を行い、地域循環と有機農業を実践されている鴨志田氏の講演を伺い、調布市における循環型社会実現の可能性について議論しました。

第二部には、環境団体交流会として参加団体からの一言アピールを行いました。

事前告知はチラシやメールリングリスト、12月20日号市報にて行い市民の参加も募りました。

一般参加者25名（事務局スタッフ含む）、18団体、市職員2名

#### <課題と総括>

コンポストで広く知られている鴨志田氏を基調講演に迎えることで、多くの個人参加者を集めることができた。また、参加団体への新たな情報提供や可能性を示すことができました。一方で、ONLINE交流会のため、交流会としての意見交換が十分にはできなかったことが今後の課題です。

## (3) 自然環境活用事業（担当：磯邊・里・安部）

調布の自然について子どもたちや市民に知ってもらうことを目的として事業を継続しています。

### 第1回 自然観察会「夕暮れの生き物観察会」

実施日：2022年8月6日（土）天気 曇り、気温28℃

16時45分受付～解散 18時10分

実施場所：深大寺自然広場 野草園駐輪場集合

目的：子どもたちを対象に、身近な「カニ山の自然」を知ることが目的とする。

樹液に集まった昆虫や葉っぱや草むらに隠れる生き物などの生態を観察する。

参加者：小学生13人（保護者13人）計26人

（応募者：子ども45人、保護者49人、7/11～25日まで募集）

7月16日の夜の生き物観察会への応募（7/5日～7/11日まで受付）48家族（うち子ども65人）、7月12日に当選案内した子ども10人と新たに5人に7月20日メールで案内、24日、27日締め切りで追加募集を行い、14人参加とした（当日欠席1人）。

講師：石川和弘氏（環境部門自然環境保全分野技術士）

スタッフ：磯邊・小俣・大島・安部（4名とも環境市民会議会員）

総括：当初、夜の観察会を7月16日に予定し、周辺民家へも注意喚起のチラシをまいたが、雨天のため中止となった。あらためて、夕方の開催として延期し、当選者・申込者よびかけた。日中の暑さを避けるため「ムシたちは葉の裏にかくれる」などの説明をききビーティングネットに落ちた虫を観察した。身近なカニ山に自然がありその自然の中で専門家にすぐに昆虫等の名前や生態をきくことができたことがよかった等との感想がよせられていた。合計34種類の昆虫と爬虫類動物が観察できた。応募も多く自然観察に関心があることがわかったが、参加人数の制限により、家族全員で参加はできなかったなどの声もあった。コロナ禍の暑い夕方開催だったがまだ明るさも残っていたため、事故なくイベントを終了することができた。来年度は夜間開催を実現したい。

第2回 2023年3月18日（土）14:00～16:00 ZOOM（Online開催）教育会館302  
地球温暖化防止講演会

地域から広げる『脱炭素社会』の実現にむけて―～近年の地球温暖化と気候変動の現状を知り、「脱炭素社会」に向けて行動を開始する景気にしてみませんか～

目的：今年度は、自然環境に及ぼす気候変動について学び、どのようにすれば脱炭素社会を地域から発信できるのか、～私から始めるエコライフ～のエネルギー消費についての実践にむけて、講師から助言をもらう。

参加者：13人（他講師1人、スタッフ2人、市職員2人）計18人

（応募者：11人、3月5日～17日まで募集）

講師：桃井貴子さん（認定NPO法人気候ネットワーク理事・東京事務所長）

スタッフ：児島秀樹・安部宝根（2名とも環境市民会議会員）

内容：講師からパワーポイント資料に基づき講義をうけ、質疑・意見交換を行った。

2015年パリ協定採択をうけての政府取り組みと自治体のゼロカーボンシティ宣言から  
①気候変動対策の強化②気候リスクの増強（豪雨災害、台風被害など）③エネルギーコストの上昇④非常時のエネルギー共有、⑤地域経済の活性化と雇用確保⑥新たな産業の創出と人材育成、⑦人口減少と高齢化をあげ、解決にむけて実態把握の話に及んだ。

総括：当初予定していた内容を変更し、調布市でもカーボンニュートラルシティを目指していることから「地球温暖化防止講演会：地域から広げる『脱炭素社会』の実現に向けて」に変更しオンライン開催として実施をした。3月5日号市報にて広報、17日締め切り時点で、事務局への申込は11人、環境市民会議メンバーへのメールリスト発信等でメンバーが参加し講師を含め18人の参加となった。

特にえねこやのメンバーからの自宅での断熱の実践報告は、具体的に数値をかかげ、どれだけの断熱効果があり、省エネと電気代の減少につながった事例が報告され、講師をはじめ、参加者にとっても断熱や省エネの具体行動へのきっかけとなったといえる。さらには、調布市ができることとして補助金申請等の援助や情報提供など、できることもあるのではないかと、協議会では、有識者や関心のある人が抽出されているが、広く市民が参加できる場が必要ではないかと、などの提案もあった。このような情報共有や意見交換の機会が提供できたことは、今後も具体事例を用いて脱炭素社会にむけての学習会とするなど、講座のあり方としても考察できる機会となった。

## (4) 調布市環境基本計画協働推事業

### 1. 環境リーダー等育成のための仕組みづくりの検討結果に基づく環境講座の運営

(担当：大村)

小学生とその保護者が再生可能エネルギーを学ぶ体験型ワークショップ「**環境講座 2022 自然のチカラで電気をつくろう**」(全2回)を実施しました。親子がともに楽しく学び、作業することを通じて、今の世代と未来世代が調布と地球環境への意識を高め、暮らしの中の行動にかなげる機会とするのがねらいです。2020年度に始めた本講座は、少しずつ改善を重ねながら、2022年度は3年目を迎えました。

講師は、多摩市立小中学校の総合学習授業で指導の実績がある小林昭一氏。企画・運営スタッフとして、市民会議の法人会員である(一社)えねこや・(一社)調布未来のエネルギー協議会の協力を得ました。

受講者は市内在住または在学の小学校3年～6年生とその保護者とし、合計約20名(10組)を募集。小学生12名、保護者11名(2回の延べ受講者41名)が受講しました。実施日前後は、新型コロナウイルスの感染者が増加傾向にあり、会場の消毒・換気を行い、受付で受講者の健康状態を確認、手指消毒・マスク着用を求めるなど、感染防止に努めました。

#### 第1回 風力発電装置の工作と体験など

11月13日(日) 13:30～16:30

実施場所：染地ふれあいの家

受講者：23名(小学生12名 保護者11名)

- ・スライドによる地球温暖化説明「シロクマさんがこまっていること」
- ・小型風力発電装置をつくるワークショップ →風車の主たる材料を色画用紙とした。屋上で発電・蓄電を体験(実際には強風のため屋上ではなく中庭で実施)。
- ・「断熱ボックス」体験 断熱効果を手のひらで実感
- ・「使用電力比べ」 スマホからヘアドライヤーまで身近な家電の使用電力を知る・ボードゲーム「地球を救う作戦会議」地球に優しい暮らし方とは? 答えを出し合い確認

#### 第2回 水力発電装置の工作と体験など

11月20日(日) 13:30～16:30

実施場所：佐須ふれあいの家

受講者：18名(小学生9名 保護者9名)

- ・小型水力発電装置をつくるワークショップ 水車の材料を木質化。水車を組み込んだ発電・蓄電装置を佐須用水に設置。 →発電・蓄電を体験
- ・太陽光発電装置と蓄電池、断熱性能を備えて自然エネルギーによる暮らしを体感できるトレーラーハウス「移動式えねこや」を見学。会場に近い祇園寺駐車場まで受講者を引率して移動。昨年度は実施できなかった「えねこや」体験が復活した。

補足：「イルミネーション RE100」との連携

本講座で発電・蓄電した再エネ電気を使ったイルミネーションの点灯が12月10日(土)、「てつみち」で行われました。京王電鉄が主催、調布市が後援し、(一社)えねこやと(一社)調布未来のエネルギー協議会が企画・運営を担当。

#### 【成果】



以下のような点から、総じて所期の目的を達成できたと思われます。

- ・ **自分がつくったから感動** 試行錯誤しながら作った風車や水車が回り始め、発電機に接続された電球が光ったときの感動。こうした体験によって受講者は、風や水の力で電気が起きることを、与えられる知識としてではなく、自らの五感でしっかり受け止めていた。
- ・ **大切さを実感** 身近な家電の消費電力を比べると、電気を熱に変えるときに大きなエネルギーが要ることに気づき、断熱材の効果を手のひらで感じ取る体験から、エネルギーを逃がさずに使う設備の大切さを実感。ボードゲームでは、クイズの答えを言い合い聞き合ううちに、楽しく知識が得られ、整理できた。
- ・ **広がる体験** 実用レベルの太陽光発電装置と蓄電池を実装した移動式えねこや見学が復活したことで、今年度の受講者は、風力・水力・太陽光という三方式の再エネ発電を体験した。それによって、自然エネルギーによる循環型の暮らしを、身近にイメージすることができた。
- ・ **材料の脱プラ** 昨年度まで風車と水車の材料には、加工と入手の容易さからプラスチック素材を用いてきた。しかし、昨年度は風車には厚手の色画用紙、水車には薄い集成材の木質ボードを採用した。「脱プラ」だけでなく、児童でも加工しやすい板と小型ノコギリを用意するなどして、木の工作を楽しむこともねらい、おおむね成功した。

#### 【課題】

- ・ **脱プラ+楽しさ** 風車と水車の「脱プラ」は実現したが、大きな水圧がかかる水車の強度不足が見られました。羽根のかみ合わせを強固にするとともに、思い思いに絵を描いたり鮮やかな彩色ができる、実用性と遊びの楽しさを両方味わえる工作にしたいと思います。
- ・ **暮らしの中で** 会場外へ出る移動式えねこや見学に時間を要したため、保護者向けの「断熱リフォーム」セミナーができなかったのは残念でした。生活者である保護者と暮らしの中でできることについて話し合う機会を設けることを検討します。
- ・ **佐須用水での発電を地域の皆さんと** 佐須用水の水力発電装置を暗くなるまで現場で稼働させ、簡単なイルミネーションを点灯し、ご近所の皆さんと楽しむことはできないでしょうか。佐須用水が国分寺崖線の湧水を水源とする、身近な「水資源」であることも意識してもらえらると思われます。

### (5) 国分寺崖線ウォークイベント事業

(担当：大村・安部・神山・児島・鍛冶・磯邊・児島・荒井)

11月27日(日)7時50分～14時(受付8時30分～9時30分、到着13:00)

国分寺崖線の保全活動をひろく市民に周知し、人材育成と環境教育の一環等を目的として昨年度と同様に事業が採択され、11月27日(日)7時50分～14時に快晴の天気の中実施しました。雑木林連絡会のメンバーを中心に企画運営のための7回の実行委員会の他、実踏やスタッフ説明会等を開催し「安全確保」を重点にしたスタッフ配置で実施しました。実行委員会では、コースについて検討し、昨年と同様の約8.3kmのコースとし、ガイドツアーを増やすことにしました。仙川駅前公園を出発点とし、ゴール地点をカニ山としたコースは前年同様で、歴史1コース(当初2コースを予定)、生き物2コース、新たに樹木医を講師とした樹木1コースの4

コースとしました。受付時間は8時半から9時半まで、かに山ゴール地点には13時前までに全員が到着、13時半参加者解散とし、スタッフが振り返りを行いました。

受付会場の仙川駅前公園では、受付テントを用意し目立たせ、参加者への目印としました。実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症対策のため、参加者にはマスク着用、手指のアルコール消毒、事前の検温と体調の確認を行いました。

参加者は定員を80名で募集し57人の応募がありました。大人34人、子ども13人の合計47人の参加で、生き物コース2コースで23人（6家族大人12、小学生10人、それ以下1人）、樹木コースの13人（子ども1人含む）、歴史コース1人（大人10人、小学生1人）でした。生き物コースには小学生以下の4歳から2人の参加がありました。年齢は、4歳から80代までと幅広く、男性と女性の割合はほぼ半々であった。11月5日号の市報に掲載し、11月5日よりウェブ上で受け付けました。

### <総括>

今年度も、新型コロナウイルス感染症感染拡大の中、市主催他多くのイベントが中止になる中での開催となりました。前年同様、3密を避け、マスク着用、アルコール消毒等の準備をしました。つつじヶ丘公園での紙コップを準備して各自で受け取る、カニ山においても飲み物汁物の提供は中止し焼き芋と焼きマシュマロを一人ずつで受け取るように工夫するなど例年とは異なる対応をとり、結果無事故で安全に実施することができました。参加者からは概ね好評であり、市民が自然に親しむ機会の提供や国分寺崖線の成り立ちや地形、文化的・歴史的背景、保全活動の様子、生き物のことがよくわかったなど、高い評価が得られ、当初の目的にかなった事業となりました。

- ① 参加者から高い評価を得られた。
- ② 26人のスタッフは必要で、適切であった。仙川駅前公園受付にテントをはり、受付時間をずらしたため、受付場所の混雑がなく出発もずらすことができた。
- ③ 参加者の関心は高いが保全活動への参加に結びつけるのは容易ではない。
- ④ ガイドウォークが好評なのでガイド養成も必要である。
- ⑤ 広報活動は例年通り、市報での広報の他、公共施設へのチラシの配布だったが、全体にあまりできなかった。
- ⑥ 27歳のボランティア1人の参加があった。市民活動支援センターにボランティア依頼し、1人の勤労者の参加があり今後につながるとよい
- ⑦ 他区市との連携は今後の課題。
- ⑧ スタッフ間の連絡にLINEを活用した。
- ⑨ 新型コロナウイルス感染症対策と体調管理等の確認については実施できたが、準備体操が必要であった。

\*上記（1）～（5）の受託事業はプロジェクト方式で運営しました。

■第2号議案 2022年度収支報告				[自2022年4月1日 至 2023年3月31日]		
					単位:円	
			予算	決算額		
収入	活動準備金		1,142,550	1,142,550	前年度繰越金	
	会費	正会員 個人	48,000	38,000		
		正会員 団体	13,000	14,000		
		正会員 法人	12,000	12,000		
		サポーター 個人	5,000	1,000		
		小計	78,000	65,000		
	事業	自主事業	15,000	0	コロナ感染を考慮し集合イベント中止	
		受託事業	1,797,400	1,744,600	環境学習事業/崖線ウォーク	
		小計	1,812,400	1,744,600		
	寄付金		250,000	254,439	受託事業関連:149,439	
	雑収入		0	9	利子	
		収入合計	3,282,950	<b>3,206,598</b>		
支出	事業費	自主事業	交流事業費	180,000	24,096	雑木林連絡会 環境フェア
			活動推進事業費	50,000	0	コロナ感染を考慮し集合イベント中止
			広報事業費	120,000	83,066	HP維持管理 ネットメイン リーフレット増刷
			調査研究・学習費	20,000	10,000	データ収集管理
				370,000	117,162	
			受託事業	1,797,400	1,744,600	環境学習事業/崖線ウォーク 事務局人件費含む
			小計	2,167,400	1,861,762	
	管理費	旅費交通費	25,000	32,040	理事会等交通費	
		会議費	7,000	1,900	総会・理事会資料代	
		通信費	2,000	0		
		事務用品・消耗品	50,000	400		
		雑費	20,000	220		
		事務局人件費	44,000	44,000	会計 メールリスト管理	
		小計	148,000	78,560		
		支出合計	2,315,400	<b>1,940,322</b>		
特別	記録誌積立		5,000	5,000		
会計	什器備品積立(カメラ等電子機器)		10,000	10,000		
		小計	15,000	15,000		
次年度活動準備金			952,550	<b>1,251,276</b>		
<b>特別会計積立金累計</b>						
		2021年度まで	2022年度積立	累計		
記録誌積立		45,000	5,000	50,000		
什器備品積立		30,000	10,000	40,000		

## ■第3号議案 2022年度監査報告

2023年4月16日、会計担当理事の立ち会いのもと、監査を行いました。

1. 2022年度収支報告に相違はありません。
1. 領収書等証票類に間違いはありません。
1. 業務執行は適切に行われています。

2023年4月16日

監事 杉山 典子

## ■第4号議案 2023年度活動方針事業計画（案）

○規約にかかげた活動目的・方針にもとづき、活動を楽しく行います。

- ・暮らしを根本から見直し行動する「私から始めるエコライフ」の活動に引き続き取り組みます。新型コロナウイルス感染症により2020年3月より、生活の自由や行動制限が約3年間続きました。また昨年2月からは、ロシアによるウクライナ侵攻がもたらす「エネルギー資源等の輸入制限」をはじめとして生産構造の変化と世界経済への影響を及ぼしました。先進諸国のCO2排出による地球温暖化は気候変動や災害・食料危機につながり、私たちの生活を見直さざるをえません。そのような中、環境にやさしい生活・持続可能な社会をめざした暮らしを考えていきます。
- ・調布市の自然環境をはじめとする「環境」について、環境を考える市民・事業者・団体に向けて活動で得られた情報や知恵を共有できるよう連携して活動していきます。
- ・市民・活動団体・企業等との連携を図るプラットフォームとしての役割を担う上で必要となる、市民向け環境情報の受発信の基地等についても検討していきます。
- ・調布市への予算要望をする中で、前年度に引き続き①環境基本計画を実効性のある計画とするための環境学習のための講座開催②国分寺崖線ウォークイベント事業の業務受託を行います。ちょうふ環境市民会議が市民との協働の実践を実質的に担い手として位置づけられ、その役割と責任が大きくなっている中、引き続き、若い理事や事務局補助の参加とあわせて人材の確保に努めながら多様で柔軟な視点を取り入れながら、2023年度もプロジェクト(PJ)ごとに事業実施に取り組みます。

これら多岐にわたる委託事業や自主事業を継続していくプロジェクトチーム(PJ)には、多くの会員のご協力が必要です。引き続きの協力をお願いいたします。
- ・今後も継続して環境保全活動を担う人材確保のため組織運営の再構築についても検討します。

※ 「第15回定期総会」はメール配信により書面議決とあわせて対面式の総会を開催させていただきます。

## 1. 組織運営

**理事会**（新理事1名含む理事9名 及び監事1名）

- ・ 定例理事会の開催。
- ・ 行政との懇談会（環境政策課及び緑と公園課）では市民ならではの企画を活かした事業提案や行政に対する要望等について話し合いをします。行政施策への提言も行います。

**運営会議**（環境市民会議会員）

理事以外の会員の意見を取り入れる場として運営会議を開きます。

**総会**

年1回開催。

**事務局**（事務局員不在・会計1名）

行政との窓口、その他事務一切を担える方を引き続き募集しています。

### <自主事業>

#### （1）交流事業

- ・ 各種イベント参加による、ちょうふ環境市民会議の活動紹介と交流
- ・ コーディネート活動（雑木林連絡会事務局 その他活動支援など）

#### （2）活動推進事業

- ・ 前年度「調布の自然学習ボランティア」の会からの寄付金を活用して子どものためのワークショップの開催を引き続き検討していきます。

#### （3）広報事業

・ SNS（Facebook 以外にも Twitter、Instagram も連動させる？）をベースとした広報活動。年に2回程度のタイミングで HP に記事を掲載し、環境市民会議のページのみならず、Facebook 調布交流会等、他のグループにも随時発信し、存在をアピールします。

それにより若い新規会員の獲得を目標にします。ML も継続。事務局補助員に依頼して、メルマガ形式の情報発信を毎月できるようにします。

またイベントごとに Youtube を配信予定。

「ちょうふの自然だより」の冊子化は継続します。

「ちょうふ環境市民会議」のリーフレット作成します。

#### （4）調査研究活動（学習会他）

- ・ 深大寺・佐須の里山保全、また、崖線樹林地の緑地保全や樹林の継続的な保全についての共通認識をもつために自主事業の一つとして他の環境保全団体の視察等を行う予定です。

## (5) 提言活動

- ・環境基本計画の実施状況等のみならず、環境全般について会員が得た情報の中から課題となる事項を取り上げ政策提言等行います。

### <受託事業>

#### (1) 「環境講座 2023」の企画運営事業

調布市環境基本計画の施策として位置付けた「環境意識の醸成」や「学びと活動体験機会の充実」の具体的な取組として、「幅広い市民を対象とした環境イベントの開催」や「小中学生への環境活動機会の提供」を重点プロジェクトとして実施することとしている。この取組を市民協働で実施するため、「環境講座 2023」を実施します。

#### (2) 雑木林ボランティア講座運営事業

- 新型コロナ感染禍にあるが、感染防止策を図りつつ、開講日を5月20日とし全講座6回の講座カリキュラムで実施計予定です。
- 4月5日号の市報に募集掲載し・チラシ・ポスターを作成し配布による広宣のほか市民会議HP等での講座PR・拡散を依頼。  
受付は4月10日～4月24日まで原則として市民会議HPにて実施しています。

#### (3) 環境保全団体・市民の交流事業

市内における環境保全への取組の理解、推進を図るため、市民・事業者・団体間の連携を推進し、次の各項に掲げる業務を行います。

#### (4) 環境保全活動・環境学習支援事業

地球温暖化対策に関する市民の行動変容に資する取組や、生物多様性に富んだ優れた自然を市民の環境学習の場として活用する取組を実施することにより環境学習事業を推進するため、次の各項に掲げる業務を行います。今年度も、子ども対象の事業と時宜にあった大人向けのイベントもしくは学習会を企画していきます。

#### (5) エコライフ推進プログラム事業

パートナーシップにより、市内における市民による環境保全活動をはじめとした自然環境保全意識、地球環境保全意識の普及啓発の推進を図るため、次に掲げる事業を実施します。

##### ア 壁面緑化啓発事業

#### (6) 国分寺崖線ウォーク

実行委員会による企画運営で12月上旬か11月下旬の日曜日に実施予定です。コース設定等、実行委員会で検討していきます。

■第5号議案 2023年度予算(案)							
				[自 2023年 契約日から 至2023年3月31日]			
				単位:円			
			前年決算額	23年予算	内訳		
収入	活動準備金		1,142,550	1,251,276	前年度繰越金		
	会費	正会員 個人	38,000	40,000			
		正会員 団体	14,000	14,000			
		正会員 法人	12,000	12,000			
		サポーター 個人	1,000	2,000			
		小計	65,000	68,000			
	事業	自主事業	0	10,000	2回開催		
		受託事業	1,744,600	1,744,600	環境学習事業/崖線ウォーク		
		小計	1,744,600	1,754,600			
	寄付金		254,439	260,000			
	雑収入		9	0			
	収入合計		<b>3,206,598</b>	<b>3,333,876</b>			
支出	事業費	自主事業	交流事業費	24,096	180,000	雑木林連絡会 関連団体等事業支援	
			活動推進事業費	0	80,000	子供向けイベントなど2回開催	
			広報事業費	83,066	200,000	HP維持管理 広報活動 ネット・メイン リーフレット印刷 PR動画制作	
			調査研究費	10,000	20,000	データ収集 学習事業	
			117,162	480,000			
		受託事業	1,744,600	1,744,600	事務局人件費含む		
		小計	1,861,762	2,224,600			
	管理費	旅費交通費	32,040	33,000	理事会出席交通費		
		会議費	1,900	3,000	総会関連 理事会資料等		
		通信費	0	2,000	資料郵送等		
		事務用品・消耗品	400	30,000			
		雑費	220	10,000			
		事務局人件費	44,000	44,000	会計 M/サ管理		
	小計	78,560	122,000				
	支出合計		<b>1,940,322</b>	<b>2,346,600</b>			
	差引(収入-支出)		1,266,276	987,276			
特別	記録誌積立		5,000	5,000			
会計	什器備品積立		10,000	10,000			
	小計		15,000	15,000			
次年度活動準備金			<b>1,251,276</b>	<b>972,276</b>			